

県内支社局 土佐支 0888-822-0158 北局 0888-822-0158 香美支 0888-756-0000 芸支 0888-756-0445 戸支 0888-722-0054

# 官民が協議会 香美市

【香長】香美市土佐山田町逆川の鍾乳洞「龍河洞」周辺の活性化に向け、官民が連携する「龍河洞まちづくり協議会」がこのほど立ち上がった。県や香美市、周辺の商店主らが参加し、観光客増に向けた基本計画を練り上げていく。(楠瀬健太)

# 龍河洞活性化へ連携

龍河洞は1973年に年間約105万人に達したのを契機に、県は観光振興部、産業振興推進部、商工労働部などが参加する部横断型のプロジェクトチームを結成し、龍河洞活性化協議会の立ち上げは、県化の基本計画案を練ってきた。

## 観光客増の計画策定へ



龍河洞まちづくり協議会の設立総会(香美市土佐山田町逆川)

龍河洞は1973年に年間約105万人に達したのを契機に、県は観光振興部、産業振興推進部、商工労働部などが参加する部横断型のプロジェクトチームを結成し、龍河洞活性化協議会の立ち上げは、県化の基本計画案を練ってきた。協議会には公益財団法人「龍河洞保存会」の役員に加え、周辺の土産物や飲食店の関係者、観光まちづくり会社「ものべみらい」の社員ら約30人が参加し、県と香美市が事務局を務める。設立総会は龍河洞近くの公民館で開かれ、約40人が出席。協議会会長に保存会の岡崎淳一会長を、副会長に龍河洞でカフェを営む白鳥恵利子さん(38)を選んだ。事務局が入居者数の推移や、県内の周遊観光拠点の整備などについて説明した。



## 嶺北消防署の大豊分署移転 4日から業務

【嶺北】嶺北消防署の大豊分署が長岡郡大豊町黒石の町総合ふれあいセンターの隣に移転した。新分署の事務所は、先に移転した嶺北森林管理署南小川治山事業所を活用し、約60平方メートルの車庫を新築した。事務所の改修を含め、総工費は約1765万円。ふれあいセンターは14年豪雨で避難所としても使われ、西村景男消防長は「災害時に「災害時に連携も取りやすくなります。ますます」と話している。(吉川博之)

段々畑を覆い尽くす2千個の風車。風が色付けされた羽根が口となつて一面に広がるラと鳴る音も耳に心地香美市土佐山田町逆川の風景を見て、大学時学んだアール・ブリュッという言葉を思い出した。専門的術教育「あじち」を専門的に活動する人たちに創作活動味し、まさにこれだとした。風車は、近くに住むさん(81)、千賀さん(作。ペットボトルを前に作り始めた。集落で農業を続けてさんは、最初はモグラす住民に頼りにされる消防を目指す」と話している。(森本敦士)



運行車両について町職員1手前川から説明を受けるタクシー事業者ら(佐川町甲)

# 佐川町 地域バス実証運行

## あすから 循環型など11路線

【佐川】公共交通空白区での住民の移動手段を確保するため、高岡郡佐川町は3日から半年間、町中心部を循環する1路線と、中心部と郊外を結ぶ10路線からなるコミュニティバス「さかわくるく」の実証運行を実施する。10月の本格導入に向け、担当職員らは「多くの住民に乗りてもらい、いつまでも利用できる乗り物として育んでもらえれば」と期待している。佐川町内の公共交通は、JR土讃線と、黒岩観光(黒原)の三つ

の路線バスがある。このうち町中心部と郊外を結ぶのは町北部と町西部を走る2路線のみ。ルートから離れた住民はタクシーを利用するしかなかった。コミュニティバスの導入は2016年度から7カ年の町地域公共交通網形成計画に基づくもので、佐川、西佐川のJR各駅と役場や病院、量販店などを結ぶ環状型路線と、面駅から郊外の各地区を結ぶ10路線を設ける。計画策定に当たって町は、地区ごとの人口や既存交通の利用者数を綿密に分析し、住民への郵送アンケートや聞き取りも行ってきた。自治体が公共交通の空白区でバスを走らせることができる自治体有償運行の形を取り、町内のタクシー業者3社に委託。乗客定員8人のワゴン車を使う。当初は車両が1台のため、循環路線は平日10路線は奇数月と偶数月に分けて週1回ずつ走る。運賃は循環路線が中学生以上100円、その他は200円。小学生はいずれも半額の100円。半年の利用実態を10

# 県内産学ドローン活用 安全普及へ新組織

カメラ付き小型無人機「ドローン」の安全利用や産業面の活用策を研究しようと、県内の大学や民間企業の関係者が1日、県ドローン安全推進協議会を設立した。産学が連携し、安全操作の講習や農業や防災面などの活用研究も視野に活動の幅を広げていきたいと考えた。ドローンは災害時の画像分析や測量、農業機器販売会社や文具店、写真店の社員と大規模な講習を実施。会長には、高知工科大学の高木方隆教授が就任した。ドローンは、業務で培ってきた技術を生かした安全講習を実施。ホームページ上の情報発信に加え、中山間地域の農業や防災のほか、情報解析などでの活用策でも互いに情報交換し、活用方法を模索していく。15日午後1時から高知工科大(香美市)で



設立された「県ドローン安全推進協議会」のメンバー(香美市土佐山田町)

## 四万十川の自然を楽しむ参加者(四万十市不破)



## 四万十川の景色堪能 四万十市 160人が河畔散策

【幡多】四万十川沿いを散策する「四万十川リバーサイドフルウ」や家族らとそれぞれのペースで歩いた。やや肌寒い天候だったが、参加者は「もう田んぼに水が入っちゃうね」風が気持ちいいなど自然を楽しみながら散策した。初めて参加した田所洋子さん(83)は同日、28回目。(山崎友裕)

同川は「普段は通り過ぎるだけの四万十川も、ゆっくり歩いたら鳥の鳴き声が聞こえる」と笑顔で話していた。2日は上流域を巡る17〜30分の4コースに約150人が参加する予定。清流保全について関心を高めてもらおうと、市観光協会などでつくる実行委員会が主催し、28回目。(山崎友裕)